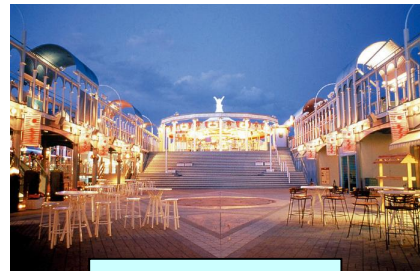


ナムコ伝 13 ナムコ・ワンダーエッグ 都市型テーマパーク 1992～2000

1992年2月29日、東京・二子玉川に開園した期間限定の都市型テーマパーク。「ギャラクシアン³」「ドルアーガの塔」など、物語の主人公として楽しめる参加型アトラクションを多数用意、また、ユニークなイベントを頻繁に実施して好評を博した。1994年に新ゾーン「たまご帝国」を併設。その後、二度の期間延長と名称変更を行い、園内でのラジオ番組の公開録音なども実施した。タレントの西村知美さんが拳式した事でも有名。2000年12月31日、多数のファンに惜しまれつつ閉園した。



エルズ広場からの眺め



2000年12月31日、惜しまれつつ閉園

「ナムコ・ワンダーエッグ」と「たまご帝国」のパンフレット

今では思い出の中にあるナムコのアミューズメントパークですが、ゲスト参加型のイベントアトラクションも豊富でした。目玉はやはりギャラクシアン³にドルアーガの塔でした。他にもバーチャルリアリティからウォークスルー方式まであらゆるジャンルの遊び満載でした…。いまやクローズしてから久しいですが、うちの奥様ともデートした場所です。子供が生まれて2歳の今、ワンダーエッグがあればいつも連れて行きたかった…。今は、遠い思い出の彼方ですが、心の中にはいつまでもワンダーエッグは残ってます。(神奈川県 hiroki@kosuke さん)

ワンダーエッグのアトラクションは、ほとんどがオリジナルの「参加体験型ストーリーアトラクション」で構成してありました。従来の見て回る受動的な物と異なり、独自のテーマストーリーに基づき、お客様がそのドラマのヒーロー、ヒロイン体験をして頂く、能動的な所が受け入れられたと思います。その象徴的なアトラクションがHiroki@kosuke様の言われる「ギャラクシアン³」や「ドルアーガの塔」でありました。また、二子玉川の土地柄もありカップルが非常に多く、大変羨ましく運営していたことを思い出します。すてきな思い出ありがとうございます。(石川 文夫)

高校を卒業し社会人となり、金銭に余裕ができ、クルマも乗れるようになった頃、ナムコ・ワンダーエッグを知った。何度となく通った片道8時間。ギャラクシアン³の臨場感、仲間と共に戦う達成感に酔い、ゴールドガンナーを取れるようになった。ドルアーガの塔は苦心の末にクリア。そしてたまご帝国が出来てからは更に盛り上がる！キューザーアリーナでの激闘！忘れられないファイターキャンプ、プレイ料金 1,000 円は高い気もしたが、飛行シミュレータの虜の自分は極める為に休みの度に通ったものだ。ANGEL から FLASH まで6種シールを集め、各機体の癖も判って来た頃、閉園となった…。(群馬県 RSXさん)

大変な長旅お疲れ様です。ワンダーエッグには、RSX様のような大変熱いお客様が多かったですね。例えば、「ギャラクシアン³」や「ドルアーガの塔」のゴールド(1位)を取るために、何度も何度もご利用される方、「フューチャーコロシウム」でカートのあたり方にテクニックを駆使する人、「ファイターキャンプ」のコース上の橋を渡ったり、橋に着陸するつわものもいて、何度もご利用してテクニックを磨く熱いお客様が多く、頭の下がる思いでした。スタッフも良き脇役になるため、いろいろと勉強させていただきました。熱い思い出ありがとうございます。(石川 文夫)

高校生の頃、1年間に250回以上通い詰めました。はじめてギャラクシアン³に乗った時、360度のスクリーンに度肝を抜か

れ、「こんなすげえゲームを作る会社はすげえ！」とナムコが大好きになり、それからというもの、アーケードの新作筐体が出るたびにナムコ・ワンダーエッグでバイト代つぎ込んで遊んでいた覚えがあります。この間久々にニコタマの跡地を通ったのですが、何事も無かったかのようなサラ地になっていて、少しさびしい気分になりました。

(神奈川県 うっちーさん)

年間250回以上のご来園とはすごいですね。学校は大丈夫でしたか。「ギャラクシアン³」は、1990年大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」に未来型遊園地の実現を目指すため、他の開発ラインを止めて、当時の開発部隊の英知を絞ったアトラクションであります。ワンダーエッグに設置する際、3Dの映像を大幅にバージョンアップしました。私も初めて見たときに、迫力と臨場感がビックリしましたが、うっちー様は初めて乗ったときに船酔いはいませんでしたか。懐かしい思い出ありがとうございます。(石川 文夫)

ワンダーエッグ3には何度も足を運びました。カーレースのアトラクションは特に何回も遊んで、係りの方に競争していただいたこともありました。一番本当に何回も来るので、その場にいらしゃった係りの方の中で私強いという方に相手をしていただいたときはとても嬉しかったのを覚えています。今思えば、スタッフの方々は人を楽しませてくれるすばらしい人だったんですね。(滋賀県 香祭竜さん)

それは、「たまご帝国」内に設置していた音声認識ドリフトカート「ドリフトキング」ですね。「ドリフトキング」は、カート毎にそれぞれ異なった個性を持っており、独特の声でお客様に応援やサポートをします。直線コースに入った瞬間に備え付けのマイクに向かって「ターボ」と叫ぶとスピードアップ、後は、ブレーキを踏まずにハンドル操作のテクニックで勢いよくコーナーをドリフトすることが勝利のカギでありました。スタッフもおお客様の良き脇役であるとして、いろいろな手強いお客様を相手にし、テクニックを磨いたのだと思います。なお、香祭竜様もテクニックが相当あった物と思われる、決して公道でテクニックを駆使しないで下さい。楽しい思い出ありがとうございます。(石川 文夫)



石川 文夫(いしかわふみお)
1980年入社。ロボット事業などを経て、「国際花と緑の博覧会」で「ギャラクシアン³」の制作・設置・運営を担当。ナムコ・ワンダーエッグのアトラクション制作・運営の中心人物のひとり、最後の園長を務めた。現在はナムコ・ナンジャタウンの町長。